緑風 かぜ

書：3F　佐藤彩乃（書道部）

2023年12月17日発行

No.54

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院　発行人：半田　亨　〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3　☎0495-21-2400　https://www.waseda.jp/school/honjo/

文化的創造物とは何か？

早稲田大学本庄高等学院　学院長　半田　亨

数日前、ビートルズの新曲Now And Thenが発売されたというニュースが世界を駆け回りました。今なおファンの多い伝説のロックバンドですが、このニュースを耳にして「おっ」と思われた方も多いのではないかと想像します。早速Apple Musicなどで「青盤」の2023年Editionを探したのではないでしょうか。ちなみに「青盤」で私の一番好きな曲は、Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Bandです。

このニュースを見て私も「おっ」と思いました。熱狂的なビートルズのファンとは言えない私がそう思った理由は、少々異なります。「本当にビートルズの曲と言っていいのか？」と思ったのです。既にジョンとジョージは他界しています。過去の録音から抽出されたジョンの歌にポールとリンゴが演奏を加えているとはいえ、ジョージは入っていません。そもそも、曲はカラオケのように音程やリズムだけが要素なのではなく、それが作られた当時の社会的な背景を背負い、ミュージシャンのエネルギーや思想が曲を取り巻く空気として感じられるようでないといけないのではないかと思います。ちょうど、2023年11月8日付朝日新聞Web版でも音楽プロデューサーの鈴木惣一朗氏が、「新技術でよみがえった音楽を聴いたとき、それが本当に本物なのか、感動できるのか。毎回、自分の中で問われていく気がします」と述べています。

この例は、実際にジョンが歌っており、ポールもリンゴも演奏しているのだから、つべこべ難しいことを言わず、ビートルズの曲としていいのかもしれません。大作家の未発表原稿が見つかった時に急ぎ書籍として出版されるように、埋もれていた貴重な作品が世に出ることは文化的にも望ましいことです。しかし、今後、ビートルズの未発表の曲の楽譜が見つかり、AIによりジョンの声やジョージのギターを合成したらどうでしょう？さらに、楽譜も含めてAIが合成したらどうでしょう？ファンはビートルズの曲として喜ぶでしょうか？Chat GPTを代表とする生成AIを使うことが日常的となる現代において「創造」という行為が大きな危機にあります。何を「文化的創造物」と言うのかが問われています。文章のみならず、絵や写真、音楽、あらゆる分野にAI合成が可能です。

本庄高等学院の情報教育では、効果的な「情報表現」をその目標の1つとしています。端末室のPCには高価な写真加工ソフトであるPhotoshopが入っています。これを使って、論文やレポートに貼る画像のトリミングや修正、コラージュなどの作品を作らせています。綺麗な写真にするためにRGBを考えながらレベル補正をさせたり、消しゴムツールで不要なゴミを消したり、マグネット選択ツールを使って欲しい画像を輪郭に沿って切り取る技術を教えます。何分もかけて行うこのような作業は、今やスマホ上で一瞬に処理できます。実際にレポートやPPTの作品に、スマホで加工した画像を貼り付けている生徒の方が多いのが現状です。しかし、目的とする画像に「似たような画像」を簡単に作ることができることが、必ずしも望ましいことではありません。Photoshopを使うためには、レイヤー（層）の概念、RGB・CMYKの色の概念や色コード、JPEG・PNGなどの圧縮技術などの理解が必要です。スマホのアプリではそれらの知識を必要としません。生徒が安直で簡単な方に流れることにより、必要とされる知識や技術を得ることができなくなることを私は大変不安視しています。

繰り返します。「創造」という人間特有の行為は、現在大きな危機を迎えています。ひょっとしたら、AIを使いこなすことが今後、「創造」という行為とみなされていくのかもしれません。

余談ですが、この緑風の文章に見るように、一般的に校長先生は多くの文章や挨拶を日常的に求められます。耳にするところによると、ネット上の例文を利用している方も多いようです。これからは生成AIで文章や挨拶を作る方も増えるでしょう。しかし私は、自分のプライドにかけて、それは絶対に嫌です。

最後に、パンツ一丁のコメディアンの言葉を借りましょう。「安心してください。AIは使っていません。」

10月に本校を訪問したタイMWITの先生と

稲稜祭を越えて

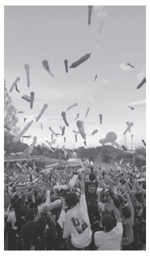
稲稜祭実行委員長　堀ノ上　碧人

我々稲稜祭実行委員は、四月に委員会が発足してから約半年間、二日間の稲稜祭を安心、安全に、そして楽しく開催するために入念に準備を進めてきました。

今年のスローガンは「熱狂を、取り戻せ。」でした。言葉通り、四年ぶりに規制なしで行われる稲稜祭をコロナ以前、いやそれ以上の熱狂的なものにしたいという思いが込められています。このスローガンは今年の稲稜祭を表現するものとして最高のものでした。このスローガンがあったからこそ、コロナ以前を超えるような盛り上がりになったと思います。この場をお借りしてこのスローガンを考えてくれた八巻こころさんに感謝申し上げます。

第四十二回稲稜祭を準備していく中で、「完全状態の稲稜祭をもう一度創りだす」ということが、とても重要なことになっていきました。我々が経験してきたこれまでの稲稜祭は、オンラインと対面のハイブリット形式での開催、規制がありながらの対面開催でした。コロナウイルスによる影響・規制を受けずに完全状態で行っていた稲稜祭を経験している人はごくわずかであり、ノウハウを模索しながらの準備となりました。そんな中、大事にしてきたのは「チャレンジ（挑戦）」をつづける事でした。壁画の展示場所の変更、実行委員全員への法被の配布など、「こうしたらもっといいかも！」という感覚を大事に多くの事柄を変更することに挑戦しました。新たな事をやるということはそれだけの困難も伴いましたが、稲稜祭が成功裏に終わった今、これらの挑戦はやってよかったと心から思います。この挑戦ができたのは私を支えてくれた、執行部、パートリーダーの皆さん、準備や当日の仕事をたくさんしてくれた実行委員の皆さんのおかげです、本当にありがとう！

ところで皆さん「稲稜祭実行委員会」にどのような印象を持っていますか？「委員会の中で一番忙しそう」「夏休みも活動があるって聞いたことがある」などなど、いろんな思いを持っていると思います。では、三年間実行委員を勤めました私から「稲稜祭実行委員」の魅力をお伝えしたいと思います！まず、一つのイベントを作り上げる事の達成感を感じられるということです。本庄学院にはたくさんのプロジェクトがあり、イベントを作り上げることができる機会はあるかもしれませんが、稲稜祭という学校を代表するイベントを作り上げることはとても達成感が得られます。「縁の下の力持ち」をやっているなぁと実感することができます。次にたくさんの先輩と良い関係を築けることです。これまで私は実行委員としてたくさんの先輩たちと関わり、その姿を見てきました。実行委員だった卒業生の中には稲稜祭の準備期間中にお手伝いをしに来てくれる人などもおり、その関係性はとても強いものがあります。そのほかにも、先生方と仲良くなれたりたくさんの人と関われたりなど、魅力はたくさんあります！ぜひ、1，2年生の皆さん、来年は稲稜祭実行委員をやってみてはいかがですか？今年実行委員になってくれた人も、続けて稲稜祭実行委員になってみませんか？ある程度ノウハウを知っていると、パートリーダーや執行部として活動できることはもちろん、「強くてニューゲーム」状態で実行委員の仕事を行うことができると思います。こうして、魅力を感じてくれた人、連続して実行委員をやってくれた人が来年の稲稜祭を今年より、より良いものにできると信じています。



このように私は三年間、稲稜祭実行委員を務め、最後の年には実行委員長を務めました。この三年間で経験したことは自分をとても成長させてくれました。素敵な先輩、実行委員の皆さんと出会えたことは本当に大切な思い出になりました！特にメインステージからの眺めは最高でした！来年の稲稜祭も楽しみにしています。本当にありがとうございました！

Coffee Break

私は小さい頃から漫画を読むのが趣味の1つで、今でも、色々なマンガを読んでいます。漫画を読むと、単に楽しめるだけでなく、自分が生活する上で勇気づけられる言葉や、大切にしたい言葉と出会うことがあります。今日はその言葉について触れてみたいと思います。

「悔しくないって　寂しいな」

車椅子バスケット漫画「リアル」（井上雄彦）に出てくる言葉です。主人公の1人が、バスケのトライアウトを受けて落ちてしまった時に言った言葉で、一生懸命取り組んで挑戦したはずが、悔しいという感情が湧いてこないことで、最初から心の中では諦めていたことに気づいたときの言葉です。

このシーンを読んで、ハッとしました。

一生懸命取り組んだからこそ、ダメだった時に生まれてくる「悔しさ」。「悔しさ」を感じるほど打ち込みたいことが、今の自分に無いと気付かされたのです。

皆さんは、何かに打ち込み、うまくいかなかった時に、「本気で悔しい」と思ったことが、高校生活の中でありますか？最低限の勉強、ほどほどの部活、距離を置いた人間関係。もちろんそれだけでも、得られるものもあります。いけないことではありません。ダメだった時に悔しい思いをするくらいなら、やらない方がいい。そんな考え方もあります。

でも、本気で打ち込まないと、自分の持っている力がどれくらいなのか、自分の限界はわかりません。

「自分はこんなものだ」と安く見積もってしまったり、「本気でやればもっとできるはずだ」とできないことを、できると思ってしまう自分がいるかもしれません。

「悔しい」と思うことはつらい経験です。それでも、「本気で悔しい」と思える経験には、価値があります。皆さんには、本気で打ち込めるものに出会って、その経験から自分を成長させてほしいなと思います。

オススメのマンガがありましたら、ぜひ教えてください！

（K）

修学旅行を振り返って

3年生はコロナ禍の影響もあり、国内の関西、北陸への修学旅行となりました。

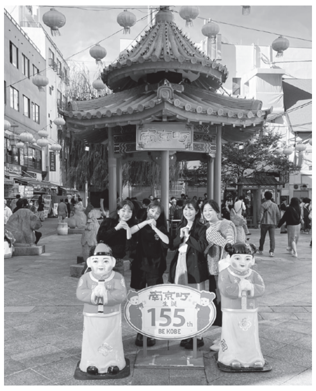
忘れたくない一瞬

関西コース　3年C組　佐々木　結

修学旅行から2ヶ月が経とうとしていますが、一番記憶に残っている思い出は何でしょうか。その時周りには何が見えましたか？誰が隣にいましたか？

なぜこう問うのかというと、20年後、30年後に覚えているのは、4日間のほんの一瞬である可能性が高いからです。みなさんにとって、ずっと記憶に留めておきたい瞬間はありますか？

私は六甲山の山頂で見た神戸の夜景に、友達と息を呑んだ瞬間が忘れられません。夜空にキラキラ輝く神戸の街と、とにかく寒そうな友達の表情を今でも鮮明に覚えています。六甲山だけでなく、神戸クルーズ、嵐山、清水寺、奈良公園などを忙しく回り、天気にも恵まれて濃密な時間を過ごすことができました。3日目の自主研修では、グループごとに行く場所がバラバラで、学院生の個性とこだわりが感じられました。



目まぐるしく過ぎた4日間ですが、みなさんはどの一瞬を切り取るでしょうか。その一番楽しかった瞬間の記憶は、辛くなったときや苦しいときに私たちを支えてくれるはずです。心に大切にしまいたい、忘れたくない思い出を、思い出してみてください。

コロナにたくさんの思い出を奪われた私たちだからこそ、全力で修学旅行を楽しめたのだと思います。卒業はすぐそこです。来年からは新しい環境に飛び込むことになりますが、修学旅行ではじけた4日間の青春に、30年後も友達と帰ってこられますように！

思い出といえば

北陸コース　3年B組　大場　好華

旅行の思い出といえば、美味しい料理、晴れた空、地域の伝統や文化、の三点セットだと思っていた。少なくとも今まで、それらを楽しむために旅行をしていた。だがしかし、いざ修学旅行を終えてみるとどうだろうか。真っ先に思い浮かぶのは、立山黒部アルペンルートで大雨と暴風に荒れる極寒の世界に飛び込んだこと、皆が眠るバスで海と夕焼けのコントラストを写真に収めようと大騒ぎしてしまったこと、当日が消費期限の鱒寿司を買っていたことを深夜に思い出し慌てて食べたこと、などである。どれもイレギュラーな、旅行の行程表には決して載らない、取るに足らない出来事ばかりなのだ。

当然だが、先に挙げた三点セットも印象に残っている。北陸の海鮮は驚くほど美味しく、あっという間になくなっていく目の前の料理に寂しさを覚えるほどだった。東尋坊で見た、秘められた荒々しさを感じる日本海の青と、雲一つない空の青。この二つはこれほどまでに違うのかと初めて気づかされた。白川郷や永平寺、金沢城からは、北陸の人々の知恵や土地愛を感じさせる美しい文化を垣間見た。まだ初秋だったが、深い雪に包まれた、音が吸い込まれるような静寂を脳裏に浮かべることができたほどだ。

しかしなぜ、取るに足りないことを一番に思い出すのだろうか。なぜ、もう一度戻りたいと願う瞬間は、友人と過ごしたなんてことのないひとときなのだろうか。うまくいかないことも、ハプニングも、いたずら心も、それさえもが楽しいのだ。いや、それらが他の何にも負けず面白いのだ。「それが高校生」なのだと、ある大人は言った。だがそれは、今の私達には分からない。

いつか分かる日が来るのだろうか。他愛のないことで涙が出るほど笑うことができなくなるのだろうか。そんな時、またこの修学旅行を思い出すのだろうか。

高校三年生の秋という華々しい記憶をどんなことがあっても守り抜いていきたい、そう心から願うような、一瞬一瞬が美しい修学旅行だった。

第2学年　学部説明会について

第2学年　主任　棚橋　知之

今年度、2年生の学年行事はすべて早稲田大学学部説明会でした。この説明会の目的は、各学部の学習内容・特徴を十分に理解し、目標設定・進路選択に繋げることです。

まず、5月27日(土)に早稲田キャンパスを訪れました。早稲田大学14号館201教室という大きな教室に入り収納式の机を広げてペンを持つと、生徒たちは笑顔でいっぱいになりました。2年後はここで学ぶのだと実感が沸きました。お話をしてくださる先生方は大変な熱量があり、私たちは次の舞台(学部)への期待に胸を膨らませました。その後、キャンパス内を歩き、大学生の息づかいを感じたことで自身の学院生活の意義を見つめ直すきっかけとなりました。

次に、10月13日(金)に所沢キャンパスを訪れました。金木犀の香りが漂い、大久保山と似た雰囲気の中で所沢キャンパスでの学びの特徴を教わりました。やはり先生方には大変な熱量がありました。大学生は、日々「人間とは何なのか」を追究し、社会のために何ができるのかを探っていました。

これですべての学部の説明を終えましたが、今後も2年生それぞれが心が躍るものと出会い、共に語り合うことで学院生活をさらに充実させていくことを願います。

球技大会を終えて

球技大会実行委員長　2年A組　児玉　悠月

去年に引き続き今年も球技大会を開催でき、無事終えることができてとても嬉しいです。藤生先生をはじめとしご尽力くださった先生方、準備から審判までご協力いただいたサッカー部・野球部・バレーボール部の皆さん、そして保護者の方々のお力添えがなければこの球技大会の開催はできませんでした。本当にありがとうございました。私たち体育委員は今回の球技大会では3年生が修学旅行で不在のため、1年生と2年生の2学年体制となりました。球技大会実行委員長として委員会内で前に立つ機会がありましたが、思いのほか大変で今までまとめてくれていた3年生の偉大さを感じました。しかし、副委員長がわたしよりも頼もしかったり1年生をまとめてくれる委員の存在にとても助けられました。体育委員のみなさん、お疲れ様でした。

球技大会は6月の体育祭と比べても規模があまり大きくなく、また10月のメインイベントは稲稜祭かなと思うので中間テストのストレス発散など、あー楽しかったと思えるくらいに楽しんでもらえたら私個人的には嬉しいです。体育祭よりも競技が少なくはありますがどれも団体競技でクラスの人との団結やコミュニケーションを必要とし、より仲を深められてとても楽しかったです。来年の体育祭、そして球技大会も楽しんで！勝ちましょう！

教員コラム

木もれ日

インディージョーンズ的サバティカル

物理科　大塚未来

この度、木もれ日の執筆の機会を頂きました物理科の大塚です。よろしくお願いいたします。この欄の主旨は特別研究期間（サバティカル）のご報告ということですが、私にとって、昨年のサバティカルに至る道のりは学生時代から続いているように思いますので、恐縮ながら初めに私のバックグラウンドのようなものを書かせていただきます。

大学では、反物質という、物質と出会うと互いに消滅してしまうSF的なものについての研究に参加しておりました。材料の特殊性から実験はスイスのジュネーブの加速器で行われ、思いもよらず私は海外で実験する機会を得ました。私はあまりエリート的な人間ではありませんので、その環境の中で、充実感や喜びだけでなく、孤独を感じたり失敗したり（国境沿いで途方にくれたり）しながら、その分多くの人に助けられて日々を過ごしておりました。そんな中でいくつか印象的だったことがあります。まず一つは、科学者に対する信頼が日本に比べ大きいように感じたということです。道に迷ったとき、道を尋ねた老夫婦は、私が研究所のカードを見せると私を家に招き入れ宿まで車で送ってくれました。二つ目は、実験エリアの壁にあった、芸術家が残していったという書きかけの赤いペンキの跡です。赤い色は実験室では実務的な意味を持つ色だったこともあったのでしょう、芸術家は科学者と喧嘩をして途中でいなくなったそうです笑。実験室の中に入り込むほどにアートが科学と隣接していることを実感し、実際にアートにお金が配分されていると感じました。三つ目は、構内の壁に張ってあった、研究所を見学した子供たちが描いた、科学者のイメージと現実を描いたたくさんの絵です。白衣を着て洗練されたイメージとは全く違う、髪をぼさぼさにしてラフな格好でPCと格闘している現実を絵で見るのは、なんとも言えない可笑しさがありました。

数年前から、学院生と共に古墳の宇宙線透視プロジェクト「墳Q」を行っています（緑風49号や学院HPのトピックスにて活動内容を紹介しています）。今回のサバティカルでは、「墳Q」プロジェクトをより意義深いものとするために様々な巡見を中心に行いました。（物理教育活動については「教育と研究」四一号にてご報告しています。）宇宙線透視は、宇宙から恒常的に降り注ぐ放射線（宇宙線）に含まれるミュー粒子を用いて、レントゲンのような原理で火山等の大きなものの内部構造を非破壊でイメージングする技術です。この技術は、火山のほか鉱山や遺跡、近年では津波の潮位測定やトンネルや堤防などのインフラの調査にも用いられています。例えば、ハンガリーのブダ城は地下に迷宮が広がり複雑な構造になっていますが、隠されたトンネルの構造がイメージングされています。フィンランドのピュハサルミ鉱山（写真）では、埋蔵されている金属の分布のイメージングだけでなく、地下1444メートルという深さから、宇宙線の影響のない貴重な環境を利用した実験や、地下での植物の栽培実験も行われています。鉱山の最深部は地熱によって驚くほど暖かく、最深部の作業場にはサウナまでありました。実際に現場を訪れることで、実験がその国の地理的条件だけでなく歴史的な背景を反映していることを身をもって感じました。タイトルにあるように、昨年は地上5000mから地下1500mまで、3つの大陸を移動し、その中で実験だけでなく、教育のシステムも国の状況や人々の考え方を反映していることを具体的に知ることができました。例えば、ベルギーでは、スリランカなど他の国では出会うことのないほどの多彩な国籍の大学院生が在籍し活躍していました。これは大学院生への経済的サポートが手厚く、現地の先生が、「ベルギーは移民なしではやっていけない国である」とおっしゃっていたことを切実に表しているように思われました。そして、研究機関が社会や教育にアプローチしていくアウトリーチ活動への姿勢が、日本と欧州で大きく異なっていると感じました。ある時、「なぜ日本は実験に参加し金銭的にも貢献しているのに、アウトリーチの会議では正式なメンバーでないのか」ということを海外の方から質問されました。私はその問いに答えることはできませんでしたが、学生時代の私がスイスの研究所でうけた印象とは、学術研究が外の世界とつながっていることを実感し、それに感銘を受けたということなのかもしれないと改めて感じました。そして学院の教員として、色々な立場の人々が面白いと思えるような連携型の科学教育実践ができたらいいなという思いを一層新たにしました。

このように、宇宙線透視というテーマで様々なところを旅することで、テーマとは全く違う領域にも広がっていくという経験を大人になってできたということはとても幸せなことだと思います。この機会を頂いたこと、大変感謝いたします。そして、学院生のみなさんに、私が見てきたこと、そして、一つのものを通じて物を視ることで思いもよらぬ世界が広がっていくということを伝えていけたらと思います。

魅力的な先生の紹介 #バトン#6

「幽玄の世界」

国語科　橋本憧子

私の専門は近代文学だが、明治や大正の小説を読んでいると、その頃の文化人にとって能楽は非常に身近なものだったことが窺える。二学期、学院の二年生はみな夏目漱石の『こころ』を読んだが、漱石も能の謡を本格的に習っていたことで有名で、『坊っちゃん』や『吾輩は猫である』にも謡のシーンが出てくる。

もともと能に興味のあった私は最近縁あってプロの能楽師の先生に弟子入りし、謡と仕舞を習っている。先日初めての発表会があり、「仕舞袴」という専用の袴を着用したのだが、普通の袴と違いズボンの形となっていて興味深い。（写真の袴はお借りしたものなので少し丈が短い）

私にとって能は面白い。しかし能は多くの現代人にとってエキサイティングではないかもしれない。まず、「速さ」とは無縁の世界である。独特の節回しをするため謡本がないと何を言っているのかわからない。前もってストーリーを把握してから観ないと内容についていけない。そして、舞台が簡素なので己の「妄想力」を駆使して観るしかない。YouTubeも倍速で観るようなコスパ・タイパ重視の方は能を観たら苦痛を感じるだろう。

私の知り合いは能を初めて観たとき、「何がしたいのかわからない、このままここにいたら発狂してしまう」と言っていた。しかしそれを能の先生や仲間に伝えてみると、「感想で『発狂』という言葉が出てくるのは逆に能に向いているかも（能には「狂女」がよく出てくるため）！」と前向きな方向で盛り上がった。能の世界は懐が深い。

能は「神」に捧げるものだとも言われ、徹底して「人間性」を廃した幽玄の世界である。皆さんが生々しい人間関係に疲れてしまった際には、能楽堂で「興奮」とは違う静かな感動を味わってみるのはいかがだろうか。

次は英語科の細先生にバトンを託します！

留学生の紹介

陳　伸睿 さん

早稲田大学本庄高等学院の皆様、こんにちは。
私は台湾の嘉義高校から来ました陳伸睿と申します。
日本語の名前は大輝です、大輝（ダイキ）と読んでください！
趣味はスポーツと絵を描く事と歌うことです。
私はずっと前から日本留学を夢見ていました。
今はこうして皆さんと一緒に学校で授業や部活などをするのが本当に夢みたいです。まだまだ日本語の勉強中なので、もし文法の間違いとかありましたら是非教えてください。私の高校には日本のことが大好きな学生がたくさんいます。私はそのようなメンバーが集まるクールジャパン研究部の部長として、部員をまとめて、色々な日本の高校との交流イベントを主催しました。
今年は日本の茗渓学園と南三陸町への訪問団にも参加し、同世代の高校生たちと交流を深めました。今回の留学を通じてたくさんの友達を作りたいです。
そしていままで軽音楽部に入部してヴォーカルになり、バスケ部と書道部にも参加し、最高に楽しかったです！来年の７月まで精一杯頑張ります。分からないところがたくさんありますが、何でも前向きに挑戦していきますので、ぜひ色々教えてください。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

学校で歌唱大会に参加しました

日本の南三陸町への訪問団に参加しました

部活で日本の茶道を体験しました

各種プログラム報告

課外講義「これがサイエンスだ！」

◆講義

々第１回「八元数の構成とその代数的住処」
　４月28日（金）　太田洋平　数学科教諭
第２回「数学はいきものだ！：数学を分析するということ」　５月22日（月）　成瀬政光　数学科教諭
第３回「宇宙線で物を透視する：ミュオグラフィ技術の力」　６月12日（月）　大塚未来　理科教諭
第４回「世界に一つだけの三角形のペアについて」
　７月７日（金）　根本裕介　数学科教諭
第５回「大学の力学入門：惑星の軌道の導出」
　７月14日（金）　峰真如　数学科教諭
第６回「量子コンピュータ入門」　10月20日（金）
　鈴木翔太　学院生（指導：峰真如　数学科教諭）
第７回「超実数はすごい！？：超準解析への誘い」
　11月17日（金）　羽田一郎　数学科教諭

◆ゼミ合宿

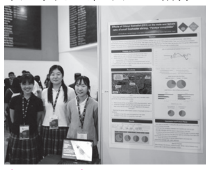
８月６日（日）から8日（火）にかけて合宿が行われました。COVID-19の影響により，３年ぶりの開催でした。参加者は3つの数学パート・1つの物理パートに分かれ，３日間かけて探究活動を行い，最終日には成果発表会を行いました。３日間を通じて，参加者はひとつのものに取り組むという研究の姿勢を体感することができたようです。また，研究をするとはどのようなことかという視点を与える「研究は「人」がするものである」という講演（講演者：峰真如先生）や発展的な知識に触れる「リボン圏を用いた結び目不変量について」という特別講義（担当者：太田洋平先生）が行われました。次回は春休みに実施する予定です。理数系にどっぷりと浸かる経験をしたい！という学院生の参加をどしどしお待ちしています！ゼミ合宿の詳細は学院HPをご覧ください。【右のQRコードから】

「これがサイエンスだ！」は実施開始から10年を迎えました。今後も，学院生がワクワクできるような質の高い講義やほかの高校では体験できないような時間を提供できるように努めていきます。

国際交流活動

◆SISTEMIC 2023
（５月23日～30日、於シンガポール）

SISTEMIC（Singapore International STEM Innovation Challenge）は、シンガポール教育省が主催し、２年に一度、本校の姉妹校であるNational Junior College（NJC）を会場として開催される、世界最大規模の高校生科学コンペです。本庄学院は第1回から招待を受けています。15カ国から62校が参加する大規模なイベントで、コロナ禍以前以上の規模となりました。日本からは本校を含む３校が参加しました。本校からは３年田中ハンナ・宮田苑佳、２年内藤千晶が参加し、研究部門でPromising Sustainability Awardを受賞しました。



◆シンガポール研修
（７月28日～８月5日人文科学班、８月１日～８月８日科学班）

NJCは2007年以来の姉妹校として、相互訪問交流を続けています。今年は、人文科学班と科学班の２班に分かれて訪問しました。人文科学班はシンポジウムでのNJCとの共同発表を軸とした交流、科学班は水をテーマにした共同研究活動を軸として交流しました。参加者は、人文科学班が３年大場好華・小林遙佳、２年織田真帆・伊藤有香・秋山友花、科学班が３年井上夏希・谷口明莉・佐々木結、２年関根桃花、１年家坂鈴穂・金井彩良です。

◆IICC 2023
（８月14日～22日）

IICC（International Ironman Creativity Contest）は台湾の教育部が、高校生の創造性向上を目指して実施している国際高校生コンペです。台湾においては、日本の甲子園のように、予選を経て全土から12チーム（１チーム最大６名）が選抜され、招待された国際チーム（今年は、チリ・韓国・ベトナム・パラオ・インドネシア・オーストリア・タイ・マレーシア・香港・日本）との間で決勝を行います。与えられた課題の表現を３日間かけて考えます。本校からは３年松野凛菜・中島真理子、２年伊藤有香・秋山友花・内藤千晶・山下凛花が参加しました。

◆MWIT来校
（10月15日～21日）

10月15日～21日の日程で、タイの姉妹校であるMahidol Wittayanusorn Schoolの生徒10名（男女それぞれ５名）・教員２名が本校を訪問し、交流を行いました。

◆NJC来校
（科学班、10月28日～11月２日）

シンガポールの姉妹校であるNational Junior Collegeの科学班生徒６名（男子２名女子４名）と教員２名が本校を訪問し、交流を深めました。このプログラムはJSTのさくらサイエンスプランで実施されています。

◆JSSF 2023
（11月２日～６日）

JSSF（Japan Super Science Fair）は京都の立命館高校が主催する世界最大規模の高校生国際科学シンポジウムです。本校からは２年内藤千晶、１年新島優芽が参加し、研究発表・ポスターセッションの他、グループコンペなどを行いました。二人はこのイベントのスタッフでもあり、基調講演の司会を務めました（写真）。また、グループコンペでは物理の影森先生が講師を務めました。

◆NJC来校
（人文科学班、11月10日～15日）

NJCの人文科学班生徒５名（男子２名女子３名）、教員１名が来校し、交流を深めました。

◆留学生のご紹介

９月より台湾からChen Shen Juiさんが本校で学んでいます。2024年７月20日帰国予定。

12月より中国からChen Jiarongさん、スリランカからGrayandKalanimaWickramasingheさんが、３月中旬まで本校で学びます。

地域・企業連携プログラム

◆ほわフェスタ 2023（11月12日）

昨年はJR上越新幹線開業40周年記念式典ほわフェスタを学院生スタッフがコーディネートしました。今年度はJR本庄早稲田駅開業20周年にあたり、記念式典をほわフェスタ2023として学院生がコーディネートしました。スタッフは３年浦田晃駿・吉野裕樹、１年野崎葵・岡本祥太朗・小島凛太郎・岩井結夢・石坂愛夏・田嶋翔です。

◆JAとの連携プログラム

本庄学院は、本庄早稲田駅近くにあるJA埼玉ひびきのとコラボ企画を開始することとなりました。何回かのミーティングの後、10月18日にはさつま芋の収穫体験、JAあおぞら館直売所を見学し、同直売所の運営にも携わる農家を訪問しました。11月12日にはほわフェスタの野菜直売所の販売のお手伝いをしました。スタッフは２年向田華梨・向川綾音、１年沖本結菜・大野みずは・岩脇百花・新島優芽です。

◆こども科学教室・本庄市民総合大学

７月16日（日）本庄学院美術室で、「光のひみつ」をテーマに、本庄市市民講座を開催しました。小学生低学年から大人の方まで、幅広い年齢層の方が参加しました。

７月９日（日）宥勝寺で、市民総合大学「茶道の基本教えます」を開催しました。講師は、本庄学院茶道部です。小学校低学年からご年配の方まで、幅広い年齢層の方が参加下さいました。

８月10日（木）本庄市民総合大学として、「望遠鏡の仕組み」をテーマに、本校を会場として実験教室を行いました。午前中は市内小学生を対象として、午後は初めての試みとして中学生を対象として実施しました。

◆アントレプレナーシップ教育（７月26日～27日）

本庄学院は2021年よりアントレプレナーシップ教育に取り組んでいます。地域創生アイデア創出プログラムは、地域を持ちまわり、その地域の特徴を踏まえた上で、町おこしの起業を競うプログラムです。昨年度の開催地は本庄市でした。今年度は、国分寺市を舞台とし、早稲田実業学校を会場に開催されました。本庄学院からは３年佐々木結・谷口明莉が参加し、佐々木さんのチームが最優秀賞、谷口さんのチームが国分寺市長賞を獲得しました。

◆グローバルキャンプinかみかわ（８月９日～10日）

このイベントは神川町と早稲田国際リサーチパークが主催する早稲田大学国際教養学部の留学生と神川町の小学生の交流を促進するイベントで、学院生が通訳とファシリテーターを勤めています。学院生スタッフは３年古瀬小春・宮田苑佳・木下咲良、２年角彩綾、１年尾高瑞樹です。

◆秋山庚申塚古墳の宇宙線透視測定を行いました！

本学院では、早稲田大学の考古資料館や本庄早稲田の杜ミュージアム、大阪大学、高エネルギー加速器研究機構、総合研究大学院大学、名古屋大学、山形大学の科学者や大学院生の方々と連携して、学校の周りにある古墳を宇宙線（宇宙から降り注ぐ放射線）を用いて内部を透視しようという「墳Q」プロジェクトを実施しています。

2023年の８月９,10日に宇宙線透視装置OSECHI（Outreach & Science Education Cosmic-ray Hunting Instrument）を用いて、本庄市の秋山庚申塚古墳の２回目の宇宙線測定を行いました。

尚、この活動は山形大のウェブページでも紹介されています。
https://www.sci.yamagata-u.ac.jp/news/detail/1070/

◆人間科学科とのコラボレーションイベント
～第２回人間工学体験会～を行いました

９/20に、人間科学科の加藤麻樹教授に本庄学院へお越しいただき、人間の感覚やパフォーマンスについての研究の体験会を行いました。

生徒たちは、歩行年齢の測定、触覚の分解能の調査など実際の研究で使われている装置を用いて自分のパフォーマンスを知る機会となりました。

生徒達の活躍

◆ソフトテニス部（男子）

・県北新人選手権大会（８月21日@熊谷さくら運動公園）
　ベスト８　田島知修（２G）・関春弥（１B）ペア
　ベスト32　田中奏大（２C）・長屋和樹（２E）ペア
　　　　　右島湧斗（１G）・岡本祥太朗（１B）ペア
・新人大会北部支部予選　個人戦（９月16日@熊谷さくら）
　ベスト16　田島・関ペア　　ベスト32　右島・岡本ペア
　※２ペアは県大会出場権を獲得
・同　団体戦（９月23日@熊谷さくら）
　２回戦　③－０秩父　３回戦　②－０北本
　準決勝　０－②松山　３位決定戦　②－１熊谷西
　※３位で県大会出場権を獲得
・新人大会県大会　団体戦の部
（11月14日@熊谷さくら）
　１回戦　②－１伊奈学園
　２回戦　１－②浦和南
　※ベスト16で県インドア大会出場権を獲得

◆ソフトテニス部（女子）

・インターハイ県予選会　個人戦の部（6月9日@大宮第二公園）
　ベスト16　皆上　心（１A）・杉崎里奈（２H）ペア
・県北新人選手権大会（８月21日@東松山市営庭球場）
　優勝　皆上　心（１A）・杉崎里奈（２H）ペア
・新人大会北部支部予選　個人戦（9月18日@東松山市営庭球場）
　ベスト16　大塚　麗（１A）・新島優芽（１D）ペア
　※皆上・杉崎ペアとともに県大会出場権を獲得
・同　団体戦（９月23日@東松山市営庭球場）
　２回戦　③－０　小川高校
　３回戦　１－２　秩父農工科学高校
　※　県大会出場権を獲得
・新人大会県大会　個人戦の部
（11月11日@熊谷さくら運動公園）
　ベスト16　皆上　心（１A）・杉崎里奈（２H）ペア
※埼玉県選手権大会（高校シングルスの部）などへの出場権を獲得

◆自転車部

細谷幹大（３A）
・６月25日
　JCFジュニア全日本選手権ロードレース
　（京都府南丹市）　出場（完走56位）
・８月６日～９日
　全国高等学校総合体育大会（インターハイ）自転車競技
　（北海道函館市）
　個人ロードレース出場（DNF）、トラックレース（３km インディビジュアル・パーシュート）　９位

自転車部としては13年ぶりとなるインターハイ出場にあたり、保護者・OBの皆様より多大なるご支援をいただきました。

皆様の暖かなお気持ちが選手の敢闘につながったと思います。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

◆硬式テニス部（男女）

・埼玉県新人大会 北部地区予選（９月８日・９日、県大会出場分）
　男子シングルス　優勝 藤﨑幹大　２位 野田遼真
　　　　　　　　４位 沼田悠太郎　10位 矢野優考
　　　　　　　　15位 近藤凜空　16位 徳増尚哉
　　　　　　　　25位 錦戸大征
　女子シングルス　16位 福薗咲希
　男子ダブルス　優勝 藤﨑・野田　４位 沼田・徳増
　　　　　　　　７位 近藤・錦戸　16位 秋谷・大保
・埼玉県高等学校新人大会　個人（９月30日・10月１日）
　男子シングルス　ベスト８ 藤﨑幹大
　　　　　　　　ベスト16 野田遼真
　　　　　　　　ベスト32 沼田悠太郎
　男子ダブルス　ベスト８ 藤﨑・野田
　　　　　　　　ベスト32 沼田・徳増
・埼玉県高等学校新人大会　団体（10月28日・29日）
　男子　５位

◆バドミントン部

・学校総合体育大会 県予選会
（６月17日・18日@上尾運動公園体育館）
　男子ダブルス　一回戦　小野川・幹田　不戦勝
　　　　　　　　二回戦　小野川・幹田 ０－２ 星野
　女子ダブルス　下田・浦上 ０－２ 大宮北
　男子シングルス　一回戦　宮内 ０－２ 大宮東
・新人大会北部支部予選会
（８月14日－16日、９月11日・12日@くまがやドーム）
　男子団体　３位　女子団体　13位
　男子ダブルス　７位　髙根・宮内　12位　根岸・若生
　男子シングルス　１位　宮内直翔　15位　根岸潤生
・新人大会県予選会（11月22日－24日@上尾運動公園体育館）
　男子団体　一回戦　早大本庄 １－３ 草加東
　男子ダブルス　一回戦　根岸・若生 １－２ 武蔵越生
　　　　　　　　二回戦　髙根・宮内 １－２ 山村学園
　男子シングルス　一回戦　根岸潤生 １－２ 西武台
　　　　　　　　二回戦　宮内直翔 ２－０ 越谷東
　　　　　　　　三回戦　宮内直翔 ０－２ 叡明

◆陸上競技部

今年度陸上競技部は男女で関東総体、全国総体に出場、国体にも埼玉県代表として１年生２名が選ばれ、様々なステージで部員たちは大活躍でした。高校駅伝では関東大会連続出場を目指していた男子は悔しい思いをしましたが、女子は昨年よりも順位を上げました。今年の大きな大会が終わり、部員たちは次に向けて力をつけるため冬季の練習に励んでいます。

インターハイ
出場を決めた
石原さんと松永さん

【県大会入賞以上の戦績】

・北関東インターハイ　６月

男子　1500m	佐藤　広人（３）	4’06”27	予選組９着	
	倉本倫太郎（３）	4’09”37	予選組10着	
3000m障害	佐藤　広人（３）	9’33”71	予選組６着	
八種競技	石原　佳篤（２）	３位		4947点
女子　やり投	松永　成美（２）	４位		40m14

・全国インターハイ　８月

男子八種競技	石原　佳篤（２）	24位	5081点
女子　やり投	松永　成美（２）	25位	36m86

・埼玉県選手権　６月

男子　5000m	佐藤　広人（３）	６位	15’04”57
女子 5000m競歩	臼倉　千賀（３）	４位	28’09”68

・関東選手権　８月

女子 5000m競歩	臼倉　千賀（３）	14位	29’48”68

・国体県予選会　8月

少年A			
男子　300m	森　優大（２）	６位	35”52
少年B			
男子　走幅跳	佐藤　大地（１）	優勝	６m86
100m	原田　勇吹（１）	３位	11”04
少年A			
女子 300mハードル	松永　成美（３）	３位	46”64
少年B			
女子　100m	伊藤　和奏（１）	８位	12”85

・埼玉県陸上新人大会

男子　100m	原田　勇吹（１）	５位	10”95
200m	森　優大（２）	３位	21”93
400m	東城　諒汰（１）	７位	51”02
400mハードル	竹島　龍児（１）	５位	55”69
高校男子5000m競歩	副島匠太郎（２）	６位	26’29”40
走幅跳	佐藤　大地（１）	優勝	7m19
	石原　佳篤（２）	２位	7m04
４X100mリレー	早大本庄	２位	41”87
	（髙橋（２）－原田（１）－森（２）－石原（２））		
４X400mリレー	早大本庄	２位	3’20”67
	（森（２）－東城（１）－竹島（１）－石原（２））		
男子　トラック	早大本庄	４位	33点
フィールド	早大本庄	６位	15点
総合	早大本庄	２位	48点
女子400mハードル	松永　成美（２）	８位	1’10”23
5000m競歩	冨矢　理央（２）	７位	29’43”41
走幅跳	伊藤　和奏（１）	２位	５m50
４X100mリレー	早大本庄	８位	49”77
	（松永（２）－渡辺（１）－伊藤（１）－笹林（２））		

・国民体育大会　10月

男子			
少年B　100m	原田　勇吹（１）	準決勝組６着	10”89
少年B 走幅跳	佐藤　大地（１）	９位	６m82
共通400mリレー	埼玉（３走　原田（１））	６位	39”84

・U18陸上大会

男子　3000m	佐藤　広人（３）	２位	8’23”17
女子　やり投	松永　成美（２）	26位	37m43

・関東新人陸上大会　10月

男子　100m	原田　勇吹（１）	予選組６着	11”13
200m	森　優大（２）	予選組５着	22”69
400m	東城　諒汰（１）	予選組８着	51”53
400mH	竹島　龍児（１）	予選組７着	59”18
5000m競歩	副島匠太郎（２）	15位	25’14”25
走幅跳	佐藤　大地（１）	２位	６m98
	石原　佳篤（２）	４位	６m90
４x100mリレー	早大本庄		失格（予選）
	（髙橋（２）－原田（１）－森（２）－石原（２））		
４x400mリレー	早大本庄	予選組６着	3’23”48
	（森（２）－東城（１）－澤田（２）－石原（２））		
女子 5000m競歩	冨矢　理央（３）	18位	28’35”83
走幅跳	伊藤　和奏（１）	８位	５m37

・埼玉県高校駅伝

男子	早大本庄	11位	2°17’37”
	（倉本（3）－野口（1）－佐藤（3）－吉岡（3）－谷川（2）－安東（2）－田村（3））		
女子	早大本庄	14位	1°24’14”
	（飯野（2）－新楽（3）－大塚（2）－神谷（2）－吉田（3））		

◆ラグビー部

・国体県大会
　１回戦　５月27日（土）
　　西武台　29（10／19）－０（０／０）早大本庄
　順位戦　６月11日（日）
　　所沢北　43（10／33）－０（０／０）早大本庄
・第10回全国高等学校７人制ラグビーフットボール大会埼玉県予選
　１次トーナメント（Gブロック）　６月17日（土）
　１回戦　浦和　26（19／７）－19（５／14）早大本庄
　敗者戦　早大本庄 57（33／24）－５（０／５）　合同C
・第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選
　１回戦　９月10日（日）
　　早大本庄 35（14／21）－０（０／０）　春日部
　２回戦　９月24日（日）
　　早大本庄 17（７／10）－５（０／５）　川口
　３回戦　10月1日（日）
　　川越東　85（31／54）－３（３／０）早大本庄

春以来、「粘り強いディフェンス」を合言葉に厳しい練習を積んできた和田組でしたが、最後の大会の３回戦、最終的に県大会優勝を飾った川越東に力負けしました。しかし、ノーサイドの笛が鳴るまで全身全霊で戦った選手たち、ベンチから大声を出して仲間を応援してくれた控えの選手たち、これまでの活動を支えてくれたマネージャーたち全員のこれまでの努力を大いに讃えたいと思います。また、応援部の皆様には、今年も熱い応援をいただき、心より御礼申し上げます。12月中旬からは安西輝人さん（２F）率いる新チームの新人戦が始まります。あらためて応援よろしくお願い致します。皆さん、ラグビー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味がある人は是非、グランドへ見学に来て下さい‼部員一同お待ちしています‼

◆硬式野球部

・選手権大会
　２回戦　７月11日（火）
　　対昌平高校（@レジデンシャルスタジアム大宮）
　　０－８（７回コールド）
・新人戦
　１回戦　８月17日（木）
　　対秩父高校（@熊谷公園球場）　13－３（５回コールド）
　２回戦　８月20日（日）
　　対小鹿野高校（@熊谷公園球場）11－１（５回コールド）
　３回戦　８月24日（木）
　　対東京農大第三高校（@熊谷公園球場）３－７
・秋大会
　北部地区予選
　代表決定戦　９月12日（火）
　　対北本高校（@熊谷公園球場）　７－０（７回コールド）
・県大会
　２回戦　９月25日（月）
　　対正智深谷高校（@レジデンシャルスタジアム大宮）
　　３－１
　３回戦　９月27日（水）
　　対山村学園高校（@UDトラックス上尾スタジアム）
　　３－10

硬式野球部としては，2021年度春季大会から数えて６シーズン連続での県大会出場となりました。

秋季大会では県ベスト16（本学院タイ記録）となりました。応援にお越しいただいたみなさま，ありがとうございました。

・県北８校トーナメント（@ケイアイスタジアム（本庄市民球場））
　２回戦　11月11日（土）　対本庄東高校　１－３
　３位決定戦　11月14日（火）
　　対本庄高校　９－２（７回コールド）

◆女子バスケットボール部

・高校総体北部支部予選
　２回戦　６月４日　○早大本庄124－23 桶川西
　３回戦　６月11日　○早大本庄 71－38 深谷第一
・高校総体埼玉県予選
　１回戦　６月17日　本庄東 53－60 早大本庄○
　２回戦　６月18日　○早大本庄 54－82 朝霞西
・県北選手権大会
　１回戦　８月21日　早大本庄 38－63 鴻巣○
・ウィンターカップ埼玉県予選
　１回戦　９月２日　○昌平109－27 早大本庄学院
・新人大会北部支部予選
　２回戦　11月12日　早大本庄 25－127 松山女子○

◆囲碁将棋部

囲碁将棋部３年吉田泰喜が第47回全国高等学校総合文化祭「2023かごしま総文」にて囲碁部門男子個人戦に出場しました！

◆書道部

・第16回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会
　「書道パフォーマンス甲子園」出場
・第76回埼玉県硬筆中央展覧会
　埼玉県書写書道教育連盟賞
　　１B　須藤　佑理
　推薦賞
　　３F　佐藤　彩乃　２G　井上桜依良
　　１F　米塚　純礼
　特選賞
　　２A　髙槗　知那　１F　藤原　優美

◆茶道部

７月９日（日）宥勝寺にて、本庄市民の方の生涯学習を目的とした本庄市民総合大学「茶道の基本、教えます」の講師を茶道部が務めました。前半は、蹲（つくばい）を体験し、床の間、お点前を見ていただきました。後半は、グループに分かれ、お点前を体験してもらいました。

◆映画部

・４U★４CUSコンテスト　本庄ガス賞　秋道潤太郎
・INPEX ４U Challenge Lab賞
　水野裕梨恵　森川　葵衣　秋元せりあ
　土屋　莞爾　望月　芽生

◆政治経済部

・第23回　全国学生対抗　日経円・ドルダービー
　総合　第14位　入賞
　黒嵜由鷹（２G）・越智大功（１A）・金子将英（１A）
　中平帆泉（１F）
※６月末と７月末の為替相場をそれぞれ１か月前に予想する学生コンテストで、４名のチームは参加 約 850チーム中、上記の成績を収めました。
　２回の予想の乖離合計は１円95銭でした。

◆ワンダーフォーゲル部

日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に，部員35名で活動しています．例年，定例山行と秋山合宿は，関東山地での日帰りおよび１泊２日とし，夏山合宿は主に北アルプスに縦走登山に２泊３日で出かけます．日帰りでも５～６時間は歩く健脚コースを設定しています．今年度は例年になく部員数が大幅に増え，夏山合宿を３コースに分けて実施しました．

今年度に実施した山行は，次の通りです．途中からの入部も可能です．仲間と山を歩きながら，気分をリフレッシュしてみませんか？

４／２	蕨山	８／27～29	夏山合宿C（尾瀬・燧ヶ岳）
４／29	伊豆ヶ岳		
５／28	裏高尾山稜	９／17	赤城山
６／18	日の出山	９／23～24	秋山合宿（大菩薩嶺）
７／18～20	夏山合宿A（尾瀬・燧ヶ岳）	10／22	鼻曲山
８／７～９	夏山合宿B（北ア・常念岳）	11／14	破風山

◆フェンシング

沼田美咲（３G）

10月９日、10日に行われました「かごしま国体 フェンシング少年女子の部」にて東京都代表として出場し、優勝しました。